

北海道電力

作成者 木村陽杜 川口穂華

北海道電力では、水力発電、風力発電、火力発電、太陽光発電、
原子力発電などの発電を行っています。

～電磁誘導コイルの仕組み～

電磁誘導とは、コイルの中の磁界が変化した時に、コイルに電流を流そうとする電圧が生じる現象のことです。

ちく電池の説明

幅 約35メートル 奥行き 約120メートル

高さ 約20メートル

面積 約5000平方メートル



火力発電・原子力発電は、水を湧かし蒸気を作りその蒸気の勢いでタービンと発電機を回し電気を作る。タービンと発電機は、一定の速度で、回し続けなければならない。（電気の回転速度は1秒間に50回転）

原子力発電の場合は、燃料のウランに中性子がぶつかると、「核分裂」が起こるので、その時に発生する熱エネルギーを利用して発電している。

電気の周波数は一定（東日本は50ヘルツ）でないと、電気製品は正しく動かない。風や太陽の強さが変化すると風力発電・太陽光発電の発電量が変化し、周波数が変化してしまう。系統用ちく電池は、この風力発電・太陽光発電の変化に対して、逆向きの変化の電気を系統用ちく電池から与え、全体の発電量を一定とし、周波数を一定とする機械。

